

2019年8月16日

パラグアイビジネス視察ミッション報告

ブラジル日本商工会議所
企画戦略委員会(大久保)

ブラジル日本商工会議所は2019年8月1～2日からパラグアイの首都アスンシオンで実施するジェトロの「パラグアイビジネス視察ミッション」を共催した。本ミッションは安倍総理のパラグアイ訪問のフォローアップとしての位置付けもある。

＜南米の中心に位置する地理的ポテンシャルを探る＞

パラグアイは近年、経済開放自由路線を堅持し、メルコスール域内向けの生産・輸出基地や内陸物流基地として注目を集めている。今後、開かれたメルコスールに向けた同地域統合の改革進展、メルコスールとEUのFTA締結などで、パラグアイの重要性が高まることが期待される。パラグアイは安価な人件費や電力に加え、メルコスール域内でパラグアイにのみ認められている「マキラ」制度と、他のメルコスール加盟国よりも低い現地調達率基準（40%）を活用し、低コストでメルコスール域内市場向けに製造供給が可能となっている。

また、パラグアイは南米大陸の中心に位置するばかりでなく、ラプラタ水系のパラグアイ・パラナ河川輸送の整備が進み、首都アスンシオンを中心に河川コンテナ輸送が活発である。パラグアイとその周辺には起伏のない広大な農牧業地域が広がっている。さらに河川輸送路に交差する形で太平洋（イキケ港、アントファガスタ港）・大西洋（サントス港）最短道路輸送ルートの整備が進みつつある。

こうした状況を踏まえて、本ミッションは「南米大陸の中心に位置するパラグアイの地理的ポテンシャル」を改めて見直し、「パラグアイが目指す農牧業やメルコスール域内製造拠点の未来を日本企業としてどのように描くか?」、「パラグアイの優位性や支援制度には何があるのか?」を探り、さらには「日本人移民の成功体験を交えた日本企業のビジネス機会」を、ミッション参加企業に理解・体感いただくことを目的としている。

ミッション実施前には本ミッションの広報を目的として、当会議所は6月7日、パラグアイビジネスセミナーをジェトロ、在パラグアイ日本国大使館と共催。在パラグアイ日本国大使館の石田直裕特命全権大使、パラグアイ商工省のボガド在サンパウロ商務官、ジェトロ中小企業海外展開現地支援プラットフォームの石田ミゲル・コーディネーターが講演を行っている。

＜同国として最大規模の日系企業ミッション組成＞

ミッション参加者は30社・機関36名にのぼりジェトロTV取材担当を含む事務局員を併せると43名にのぼり、同国では最大規模の日系企業ミッションとなった。日本からは大前日伯経済委員会企画部会長を初めとする経団連関係者3名、経済産業省2名ほか日本

から7名が参加。ブラジルからは当会議所の参加募集広報によりミッション全体の2/3を占める22名が参加した。参加者の皆様には改めて御礼を申し上げたい。

本ミッションの受け入れに当たっては在パラグアイ日本大使館、在日パラグアイ大使館、在パラグアイ日本商工会議所、パラグアイ日本商業会議所、パラグアイ商工省、パラグアイ外務省がお互いに協力した。同国において過去に例を見ない協力体制が構築できた意義は大きく、関係機関の皆様には改めて感謝を申し上げるとともに、今後も当会議所がパラグアイで取り組みを進める上でも強力な枠組みとして機能することが期待できそうだ。

<個別案件のフォローアップが今後の課題>

本ミッションを通じて参加者は、「南米大陸の中心に位置するパラグアイの地理的ポテンシャル」及びそれを活かすための「パラグアイの優位性や支援制度には何があるのか?」を理解・体感でき、輸出や投資の可能性のある案件を発掘している。ジェトロが行ったアンケートではミッション参加者から今後の取り組みとして期待するものとして個別案件の現地マッチングと市場調査の要望が最も多く、今後も個別案件をフォローアップしていく必要がある。

ビジネス環境整備の面では自動車部品分野における投資を判断する上でネックとなっていたパラグアイ・ブラジル間の自動車協定未締結問題について、パラグアイ政府が日本企業の投資を考慮に入れた交渉に取り組む旨詳しい説明があった。

また、本ミッションに参加した経団連一行はパラグアイ産業連盟（UIP）と協力覚書きの調印式を別途行っている。

1. パラグアイビジネス環境視察ミッション概要

- ◆日程:2019年8月1日(木)~8月2日(金)
- ◆主催・共催 ジェトロ、ブラジル日本商工会議所
- ◆協力 在パラグアイ日本国大使館、パラグアイ商工省、パラグアイ外務省
- ◆参加者:30社36名
- ◆CS アンケート結果:上位二項目 100%(最上位 84%)
- ◆報道件数:2件 ABC(全国紙)1件、PRO Noticias(TV ニュース)1件
- ◆政財界要人面談:
 - ①マンクエーリョ商業副大臣(暫定商工大臣)
 - ②デルガディージョ外務副大臣
 - ③マリオ・ロメロ商工省 REDIEX(輸出投資ネットワーク)総局長
 - ④パレデス・マキラ審議会委員長
 - ⑤ボルペ・パラグアイ産業連盟(UIP)会長
- ◆訪問・交流先:
在パラグアイ日本商工会議所、パラグアイ日本商業会議所、パラグアイ商工省、パラグアイ外務省、住電送パラグアイ、前原農商、TG Cuir、パラグアイ産業連盟(UIP)

2. ミッションの各訪問先報告

1. 人脈形成、現地企業家等との意見交換

①在パラグアイ日本商工会議所、パラグアイ日本商業会議所との交流会(8月1日)

ミッション参加者による同国における円滑なビジネス展開を行うための人脈形成を目的に両商工会議所との交流会を実施し、パラグアイ政治経済ブリーフィングと活発な交流が行われた。



②在パラグアイ日本国大使公邸レセプション(8月1日)

石田在パラグアイ特命全権大使主宰によりマンクエーリョ暫定商工大臣、デルガディージョ外務副大臣、ボルペ・パラグアイ産業連盟会長ほか、矢崎パラグアイ、常石造船パラグアイ、白沢商工など主要日系業製造業、さらにはミッション訪問先幹部がレセプションに参加。活発な交流が行われた。



③パラグアイ産業連盟業連盟レセプション(8月2日)

リス・クラメール商工大臣、デルガディージョ外務副大臣の参加による経団連・パラグアイ産業連盟（UIP）による協力覚書締結後にレセプションが開催され、ミッション団と UIP 関係者による交流会がなされた。最後に経団連、外務省、商工省、UIP の各関係者と、両国大使を交えて、日本・パラグアイ経済関係の強化に向けて今後も一致団結して取り組むことが確認された。



2. 現地政府機関等からの情報提供、意見交換

①商工省パラグアイ投資環境セミナー(8月1日)

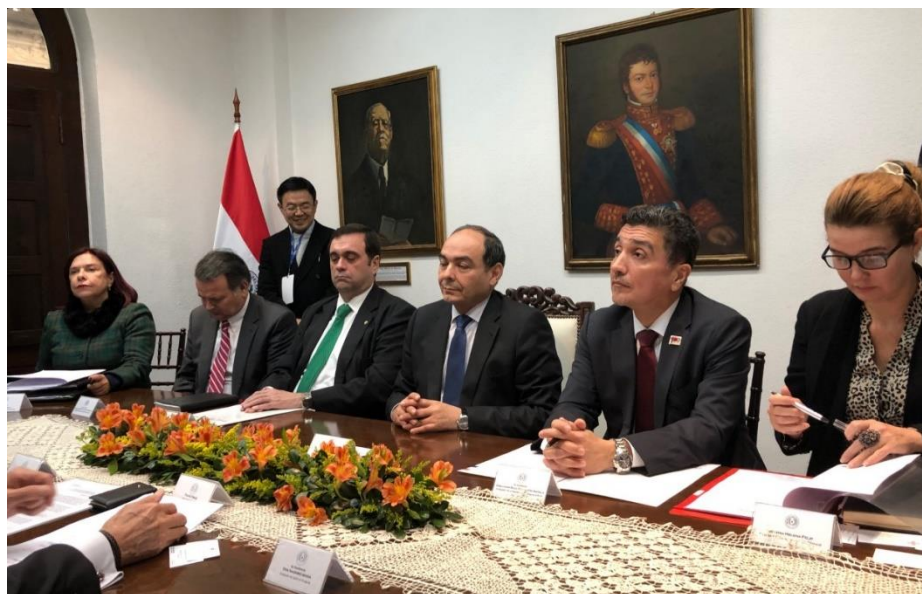
マンクエーリョ暫定商工大臣（商業副大臣）、デルガディージョ外務副大臣、ロメロ商工省輸出投資ネットワーク（REDIEX）総局長、パレダス・マキラ審議会委員長、マルセロ・トヨタシパラグアイ日本商工会議所会頭（トヨタ車輸入販売、トヨタ車向けレザー・シート製造輸出を行うトヨタグループ社長）らのプレゼンテーションが行われ、パラグアイへの投資関連制度やメリット、ビジネス体験が披露された。

ミッション参加者の要望で同国での生産投資上ネックとなっていたパラグアイ・ブラジル間およびパラグアイ・アルゼンチン間での自動車協定未締結問題に関するパラグアイ側の交渉方針に質問が及び、パラグアイ側は当該交渉では日本企業の新規投資を配慮した協定締結内容の実現を目指す旨、マンクエーリョ暫定大臣が言及。さらに協定内容の見通しについて詳しい回答を得た。



②外務大臣表敬(8月2日)

ミッション団のうち、経団連関係者3名、ジェトロ1名、ミッション団の関心企業1名が就任3日目のリーバス外務大臣を表敬。メルコスールと他国・地域とのFTA交渉動向や日本メルコスールEPA交渉に向けた働きかけなどの両国間の経済関係について意見交換を行った。



3. 現地製造業、アグロビジネス現場視察

①住電送パラグアイ視察(8月2日)

メルコスール市場の一大生産拠点であるワイヤーハーネス生産大手メーカーの工場を視察。黒田副社長以下同社スタッフが応対。同国での生産メリットや課題を把握し、メルコスール域内のみならず米国への輸出拠点になっている点も把握。ミッション参加企業によるビジネス取引の可能性も把握できた。



②前原農商視察(8月2日)

日系移民が経営する、パラグアイで最大規模（東京都の半分）の農牧場を経営し、かつ同国のスーパーでのタマゴ販売のシェア7割（約100万個/日）を占めるタマゴ工場を視察。前原会長ほか経営陣が応対。参加企業によるビジネスの可能性も把握できた。

ミッション一行は昼食でパラグアイ産和牛料理とタマゴかけごはんを堪能した後、最後に前原会長が建設した日本国外に存在する唯一の日本の城となる「御影城」を視察した。



③TG Cuir 視察(8月2日)

トヨタアルゼンチン工場向けのハイラックス用やカナダや欧州にもトヨタ車向けにレザー・シートを生産する工場を視察。前駐日パラグアイ大使でトヨタグループの豊敏会長、マルセロ・トヨタシ社長ほか、TG Cuir 社工場スタッフが応対。パラグアイの労働者による生産で欠陥品ゼロの驚異的な記録を更新しておりトヨタのベストサプライヤーにも認定。労働集約型産業の質と生産性の高さを確認した。



以上